

日本画専攻

設置クラス	本科 高卒生	月曜～金曜	9:30～16:30
	専科 高3生	火曜～金曜	17:30～20:30 日曜 9:30～18:00
	高2専科 高2生	火曜～金曜	17:30～20:30 日曜 9:30～18:00
	日曜専科 高3生 (遠方から通塾)	日曜	9:30～18:00
	高2日曜専科 高2生	日曜	9:30～18:00



自分の可能性と向き合う。

「日本画」という言葉から、皆さんはどんなイメージを描きますか？日本の風土や自然観、心情や感性。日本画の顔料や墨、和紙といった素材。皆さんが何に興味を持ち、どんな絵を描いていくのか…。日本画はそんなさまざまな可能性に応えてくれます。日本画専攻では、物をよく観察することを大切に、基礎から応用へと段階的に身につけていきます。自分の可能性と向き合う1年は、一生の記憶に残る充実したものとなるでしょう。

指導スタッフ

ベーシックな指導から各自の個性を生かしたゼミまで、さまざまなカリキュラムを実現するスタッフです。過去10年間で東京藝大32名、愛知芸大67名の合格者を輩出しています。

●レギュラー講師

稲垣 洋介 東京藝大大学院日本画修
植田 浩 愛知芸大大学院日本画修
岡村 苑子 愛知芸大大学院日本画修
唐木 唯衣 愛知芸大日本画在籍
木曾 浩太 愛知芸大大学院油画修
成田 吉毅 多摩美大大学院日本画修
宮川 翠 東京藝大大学院日本画修

●チューター

岩本 茉奈実 愛知芸大日本画在籍
篠崎 和真 愛知芸大大学院日本画在籍
山口 大空 愛知芸大油画在籍



年間カリキュラム	本科	専科・高2専科	日曜専科・高2日曜専科
1学期 ●入塾ガイダンス ●第1回全統共通テスト模試 ●全体保護者会	春期講習		
	[絵画表現Ⅰ] ～基礎造形力強化～ ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題 (土曜ゼミ) ●各種ゼミ (構図、計測、絵具など) ●屋外スケッチ授業	●東山動植物園スケッチ ●日本画制作 (岩絵具、和紙使用) ●1学期末コンクール (石膏デッサン、静物着彩)	[絵画表現Ⅰ] ～基礎造形力強化～ ●制作用具の紹介と扱い方 ●静物デッサン ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題 (土曜ゼミ) ●各種ゼミ (構図、計測、絵具など) ●屋外スケッチ授業 ●日本画制作 (岩絵具、和紙使用)
	●第2回全統共通テスト模試		
2学期 ●保護者会 (三者面談) ●塾生作品展 ●大学入学共通テスト出願 ●愛知芸大公開実技模試 ●第3回全統共通テスト模試 ●全統プレ共通テスト	夏期講習		
	[絵画表現Ⅱ]～絵画表現力の強化～ ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題 (土曜ゼミ) ●東京藝大公開実技模試 (二次対応) ●生徒がモチーフを考える静物着彩 ●総合型選抜・学校推薦型選抜対策 (個別指導)	●屋外スケッチ授業 ●デイキャンプ ●一人一卓静物着彩 ●新信校本科との合同コンクール (石膏デッサン) ●2学期末コンクール (石膏デッサン、静物着彩)	[絵画表現Ⅱ]～絵画表現力の強化～ ●石膏デッサン ●静物着彩 ●人物課題 (土曜ゼミ) ●東京藝大公開実技模試 (二次対応)※ ●総合型選抜・学校推薦型選抜対策 (個別指導) ●屋外スケッチ授業 ●新信校専科との合同コンクール※ (静物着彩) ※は専科・高2専科のみ
	冬期講習		
3学期 ●大学入学共通テスト ●修了会	直前講習		
	[志望校別対策] ～絵で表現することを深める～ 入試に向けて、それぞれの志望大学に応じた課題の対策を行います。入試本番を間近に控え実践力を強化します。		



石膏デッサン

ゼミやレクチャーを導入し、確実にレベルアップできるカリキュラムで授業を行います。



静物着彩

多種多様なモチーフを取りそろえており、各大学出題傾向に合わせたさまざまな課題に対応します。



人物課題

人物着彩やヌードクロッキーゼミなど、人物モデルを描く課題も数多く行っています。



東京藝大公開実技模試

新信校実施の公開模試に授業内で参加します。全国区での自分の実力を把握できる機会です。



デイキャンプ

本科では毎年、授業としてデイキャンプを行っています。仲間との絆を深め、受験に臨みます。



自宅学習課題

塾での授業以外に、自宅学習課題にも取り組んでいます。日頃の積み重ねが合格につながります。

日本画 本科

今年から初めて芸大・美大にチャレンジする初心者から、よりハイレベルな大学をめざす経験者まで、一人ひとりの個性や実力に応じたカリキュラムを行います。観察力と描写力から生まれる「写生力」を身につけることを目標として、石膏デッサンや静物着彩などの基本的な課題から、ゼミや屋外スケッチ、自分たちでモチーフを考える特別課題など幅広いカリキュラムを通して学んでいきます。それらのベーシックな力を、定期的に行われる一人一卓静物着彩やコンクールを通して確認していきましょう。

日本画 専科・高2 専科

高校3年生および2年生を対象としています。1学期は観察力を身につけること、そして絵具などの道具の扱い方を学んでいきます。2学期は日本画受験で出題頻度の高い石膏デッサン、静物着彩を中心に、見えている世界をどのように画面で表現するかを学びます。また実技模試を通して実戦的なアプローチも習得していきます。



1. 一つひとつのモチーフに対し積極的に描ける作者ですが、この作品は一つのモチーフが突出しすぎず、調和のとれた色調と描写で表現されています。白と黒のモチーフの重ね方の対比のアクセントがリズム良く、目を引きます。また、鉢植えの葉や白、グレー等の同色系のモチーフの描き分けも意識して表しているのが分かります。【本科生】



2. 鏡の写り込みやモチーフのカラフルさなど、見えたまま描くと全体が強くなってしましますが、うまくメインから見えるようにとらえられている力作です。剥製だけに頼らず、後ろにあるガラスや花など物と物との重なりをよく観察して描かれているので、魅力的な空間表現につながっています。描写の説得力や筆のタッチの幅など、より追求していけると良いでしょう。【本科生】



3. 花束から左奥へ抜けていく色味や空間が美しく描けているところがこの絵の魅力です。モチーフのきれいさに反応して描けるところが作者の持ち味ですが、とすると物の実感や存在感、構造感や形体感などが弱くなる傾向がありこの作品も例外ではありません。バールールの判断を適正にし明暗や質感のコントラストの表現に幅を持たせると良いでしょう。【本科生】



4. モノトーンに近いモチーフですが色味を扱うこと・絵具の表現幅を利用することを意識し、おおらかに卓上の広がりを描いています。どんなモチーフでも絵具を扱う以上色彩を味方につけることは大切でし、ただカラフルになれば良いというわけではありません。広い視野でモチーフ同士の比較から色味を導き出した作者の力を感じます。【本科生】



5. 自分で考えたモチーフです。自分で試してみたいこと、表現したい目的を感じます。固有色の色の種類が少ない分、質の表し方を通常よりも掘り下げて描くことができ、表現の幅が増した一枚になりました。【本科生】



7. 夏期講習の作品です。白い鉢の立面はやや弱いですが、植物の密度やボリュームが感じられます。モチーフでは、玉ねぎが複数あり構成や表現方法を工夫しました。特に手前の重ねた玉ねぎは、触ってみた質感や食べ物だという実感が作品からよく伝わります。【本科生】



6. 壁面を含めた空間は秤やガラス瓶を中心に意識を持って表現されており個々の描写は表現が的確で魅力的です。植物と果物の空間関係や個々の物周りの小さな空間表現がより明快になると良いでしょう。【本科生】



8. 繊細さとダイナミックな要素が混在したモチーフですが、花のリズム感を大切に仕事できています。この作者の持ち味である筆置き心地よさや色味の美しさが、華やかな画面の明るさとして結実しています。【本科生】

★合格者からのメッセージ



柴沼 さくらさん

日本画本科
旭野高校出身

合格

東京藝術大学 日本画専攻
京都芸術大学 日本画コース

入試再現作品



絵に自信が持てず、何度も悩んだ受験期間でしたが、自分の中の“好き”を最優先に考えるようになってから、絵も良い方向に向かっていった気がします。周りと比較してしまったり、作風に悩んだときは自分の心に耳を傾けてみてください。好きという感情は絶対に画面の中であなたの最大の魅力になります。自分の好きなものだけは最後まで信じてあげてほしいです。



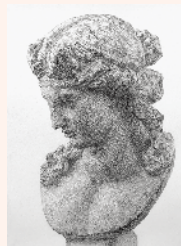
坂野 蓮乃さん

日本画本科
旭野高校出身

合格

愛知県立芸術大学 日本画専攻
名古屋造形大学 美術表現領域

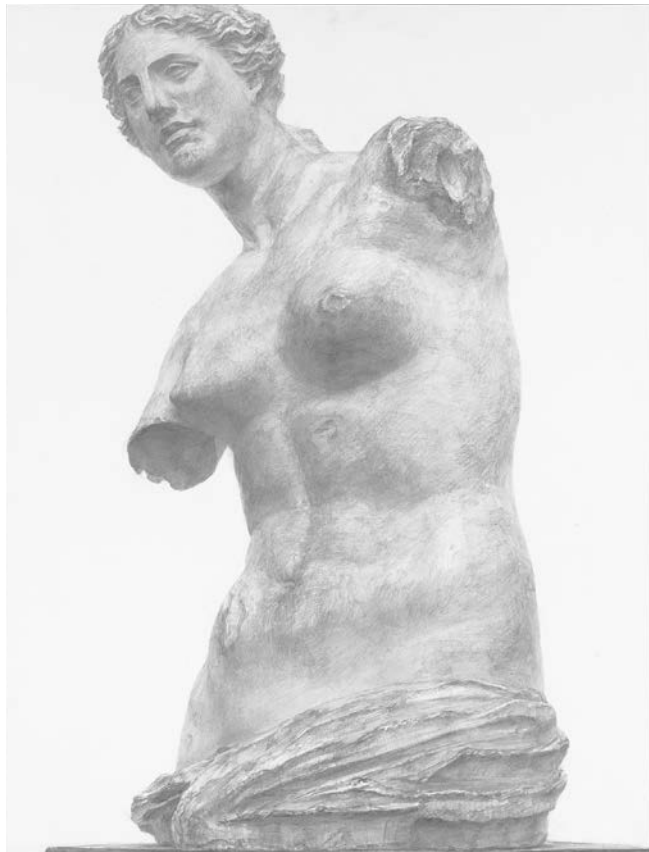
入試再現作品



河合塾は多くの生徒の中で切磋琢磨できること、経験豊富な講師陣に指導してもらえること、参考作品や過去の資料が豊富なことが魅力です。制作や普段のことでも自分のことを理解し、向き合えたら成長につながると思います。大学入学はゴールでありスタートでもあります。自分がやりたいことを見失わず、表現する喜びを忘れずに頑張ってください。



1. 初めて見るモチーフや描いたことのないモチーフを描こうとすると、絵としての完成を豊かにイメージすることは難しいものです。それには経験や日々の訓練はもちろん不可欠ですが、作者が特に秀でているのはモチーフを感じ取り理解する力、それをいろいろな角度から検証する思考力です。この課題もロープの色や質が豊かに変化することがこのモチーフの急所であることを最初から感じ取り表現できています。イメージができる人の傾向として、ある程度イメージ通りに描けるとそこで終わろうとしがちですが、この作品ではそのイメージを越えて石膏像のリアリティをさらに上げ、ロープとのやりとりまで踏み込んでいることが実感につながっています。[本科生]



2. 調子や質の変化を豊かに表現することに長けた作者ですが、短時間の制作ではその良さが適切に発揮されるものの、じっくり描き込むと徐々に観察の視野が狭くなり調子や描写の緻密さが似てしまうことがありました。この作品では大きな像を見上げた際に感じる空間の広がりや、手前から光を受けて明るく佇んでいる美しさなど、第一印象として受け取ったものを最後まで大切にしながら描けたのではないのでしょうか。しっかり手数を入れることと表現の幅の広さを保つことを高いレベルで両立することに成功しています。[本科生]



5. 作者はロジカルに制作を進められる人で、基本的なことや学習したことをきちんと押さえつつ描けるという長所があります。システマチックに聞こえるかもしれませんが、伝統や日々の素描が土台になっている日本画という分野ではとても大切で、極めれば誰にも真似できない美に至る可能性があります。もしかしたら作者本人も個性を欲したり長所を探したりすることはあるかもしれませんが、現状でもきちんと個性になりつつあると言えます。この作品でも明確な明暗の組み立ての上に質感表現がしっかり乗っており、理想的な順光の立体表現と実感が両立しています。十分自信を持って良い作品だと言えるでしょう。[本科生]



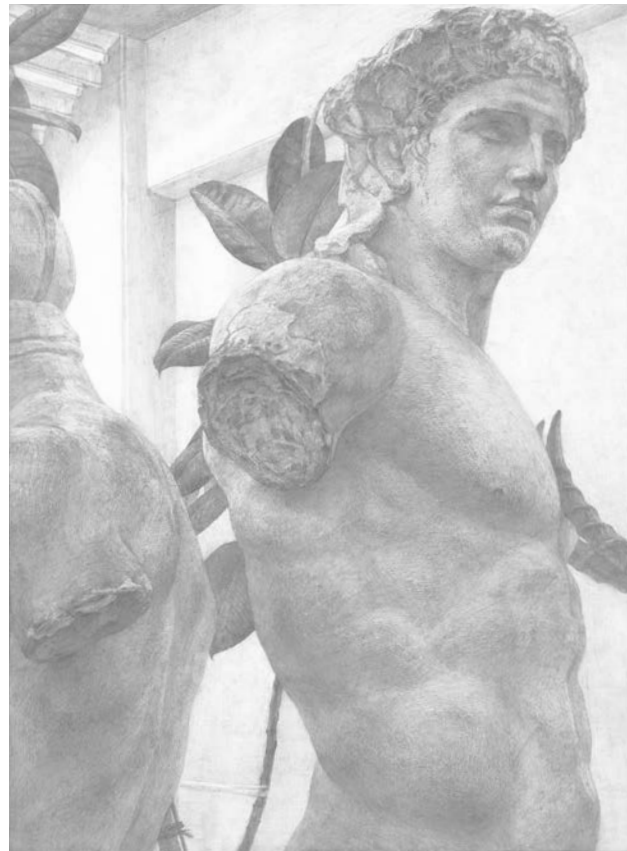
6. この作品の魅力は二つの要素が同居していることです。一つは作者の持ち味である細部の描写が石膏の硬さを感じさせること。そしてもう一つは、硬さと同時に空間の柔らかさがゆったり表現できていることです。本来、硬質な描写と空間の柔らかさを両立することはとても困難なことです。細かく描くだけなら案外簡単ですし、ゆったり描くだけならそれも難しくはありません。ですが二つを両立させるためには、描写する際に常に全体像を見ながら描く必要があり、一瞬でも部分だけで作業をするとこの全体感は失われてしまいます。言葉にするとそれほど難しいことには聞こえませんが、長い制作時間の中でこれを実現できるのは作者の意識の高さとシビアさがあるからでしょう。[本科生]



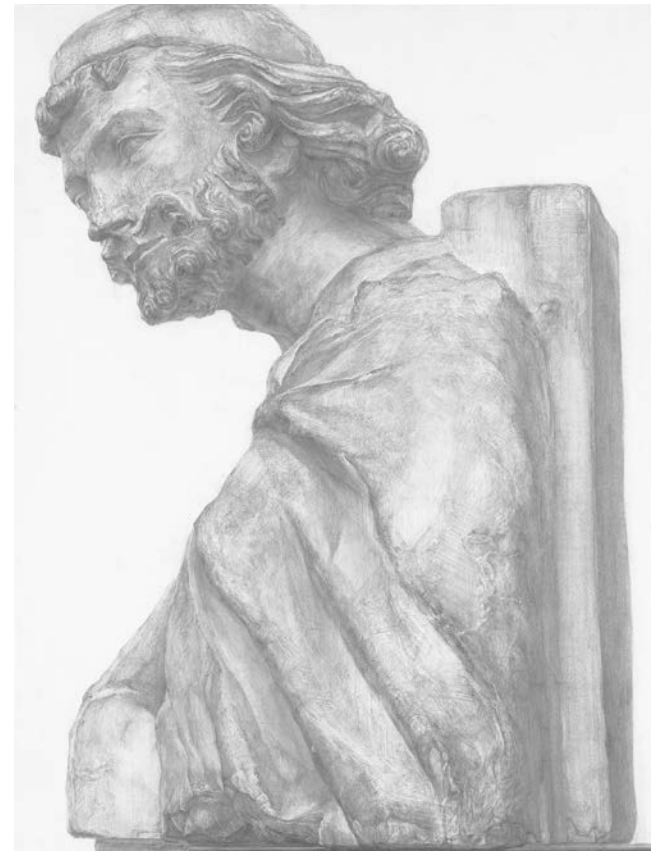
3. 隅々まで丹念に描き込まれた密度の高い作品です。その分、紙の目が詰まってやや調子が重くなり、像と余白との境界線がきつく見えてしまっているところがあるのが少し惜しい点ではあります。しかし、それを恐れてほどほどに描くのではなく、リスクを冒してでも自分が納得いくまで追求していこうとする姿勢が感じられ、画面から心地良い緊張感が漂っています。自ら進んで課題を探し、克服するために思考や努力することを厭わず、むしろ楽しんですらいるかのように見えるところが作者の強みだと思います。[本科生]



4. プルータスは胸像の中では比較的大きく、肩幅の広さが特徴的です。この作品の位置で描く場合は手前の肩から奥の肩へと抜ける前後感を表現することがポイントの一つとなります。強い調子や荒いタッチを利用して手前の肩を出す方法はよく目にはありますが、ここではそれらは必要最低限に抑えられ、明るいグレーを基調として微妙な変化を丁寧に追うことで張り出してくる肩の形態を見事に成立させています。既存の手法をただ盲信するのではなく、新しい可能性を模索していく姿勢は美術の本質とも言えるでしょう。[本科生]



7. 基本的な明暗のコントロールや形を合わせる力などはこの作品からも十分感じますが、何よりすべての表現に気持ちに乗っていることがこの作品の魅力となっています。長い時間を描く日本画の受験では、多くの人が気持ちを込めない作業に陥りがちで、作者も場合によっては考えすぎたり気持ちを込めない作業を重ねてしまったりということはありません。しっかりと身につけた基本は自分の中にきちんとたまっていくもので、制作の現場ではモチーフを素直に見ることや、自分の気持ちを込めて表現することで最大のパフォーマンスができる場合があります。この制作では、理屈や描き方もイメージしながらも、モチーフのスケールを感じ取りながら進めていった実感が画面から感じられる素晴らしい出来となっています。[本科生]



8. 通常よりも像の背中側に少し回り込んだこの位置から描くと決めた時点で、作品の完成イメージが浮かんでいたのだと思います。作者がこだわって描写した箇所には、どう描いたのか簡単にはわからないような独自の魅力が生まれます。しかし作品全体をどう仕上げるかのイメージが弱いとその持ち味が発揮しきれずや未完成的印象で終わってしまうこともありました。この作品ではゴールを見据え、常に目的を持って仕事をすることで、どの描写をとっていても像全体の印象を表現するためにしっかりと機能しています。[本科生]



1. ペットボトルを中心とした構造感や空間表現、画面の見えやすさなど、高3生の作品としては安定した実技力を感じられる作品です。今後、個々のモチーフ描写の精度を高めていくことで、よりレベルの高い作品を描けるでしょう。【専科生】



2. 高校3年生の夏の作品としてはしっかり基本ができている作品です。体のボリューム感と、その中央に頭部（頭・顔・首）が円柱として立っているという構造を表現できています。作者の描写力も春からコツコツ向上させており、基本的な構造感の上に描写での実感が乗っていることも成功したポイントでしょう。石膏の色調や空間感、質などは作者の理想にはまだ届いていないように感じます。今後追求していく中でより良い作品が生まれるでしょう。【専科生】



3. 作者はもともと丁寧な観察と描写することに長けていましたが、全体で比較しながら描く意識は弱いところがありました。この作品では2体の像の見え方の違いを意識したことで普段よりも鉛筆の色や質感表現の幅を増やすことに成功しました。【専科生】



4. モデルらしさや質感など、狙いを持って描かれた作品です。光沢のあるシャツの印象や、モデルの表情、髪の毛の質感など丁寧にとらえられています。肌の質感に関しては、もう少し滑らかな肌らしい表現ができると良いです。【本科生】

合格者からのメッセージ



小泉 美雅さん

日本画日曜専科
豊橋南高校出身

現役合格

愛知県立芸術大学 日本画専攻

愛知芸大二次試験の前日、好きではないモチーフを描くときにモチベーションが上がらずうまく描けないと悩んでいた私に先生が、どんなモチーフにも必ず魅力があり、愛をもって描くことでそのリアリティを追求しろと教えてくださいました。その言葉を胸に本番、誰よりも気楽に楽しく、モチベーション高く描けました。それが結果として絵の魅力につながったと思います。

入試再現作品



田中 絵梨さん

日本画日曜専科
加納高校出身

現役合格

金沢美術工芸大学 日本画専攻



授業作品

河合塾には、とても上手な先輩方の作品や参考作品がたくさんあるため、見て、比較して、自分の絵に何が足りないのか調べることができます。自分の絵を見て悩むこともあると思うけど、解決方法は意外と近くにあったりするの、あきらめずに探してみてください！きっと見つかると思います。先生方はその手助けをしてくれます。応援しています！

ゼミ1:スケッチ授業

光、風、温度を五感で感じ、スケッチブック片手に絵になる景色や物を探し描くスケッチ授業は、アトリエでの制作だけでは気づけない自分の感覚があることを気づかせてくれます。



ゼミ2:日本画制作

日本画画材である岩絵具や墨、和紙などを使用して2週間をかけて制作します。

毎年充実した作品が生まれています。

絵画的な研究だけでなく制作過程の中で物の考え方や計画性、また日本画への気持ちを高める機会となっています。

